

## 資料4-1-4

科学技術・学術審議会  
研究計画・評価分科会  
宇宙開発利用部会  
ISS・国際宇宙探査小委員会  
(第4回)H26. 6. 13



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

# 国際協力・安全保障・外交上 の観点から見たISSの意味

平成26年6月13日(金)

文部科学省  
研究開発局

# 1. ISS計画を巡る国際的な情勢

## (1) ISS計画提唱～開始当初期(1970年代後半～90年代初頭)

- 米ソ冷戦構造が続く1980年代前半に米国がISS計画を提唱したことは、西側諸国の結束強化と米国のリーダーシップをアピールする政治的意図があった。
- ただし、米ソ両国は、冷戦構造下にあっても、アポロ・ソユーズのドッキングなど、平和目的の外交ツールとして宇宙協力を活用してきた。

## (2) 冷戦終結～ISS建設開始(1990年代初頭～2000年代初頭)

- ソ連崩壊後、ロシアがISS計画に参加したことにより、ロシアが保有する大量破壊兵器運搬技術等の機微技術や技術者の流出防止に寄与。
- 同時に、ロシアは、スペースシャトルの退役後、米国の民間有人宇宙船の運用開始までの間、ISS参加極中では唯一の有人輸送手段保有国であり、ISS計画の推進においてもはや欠くことのできない存在となっている。

## (3) 2000年代初頭～

- イラン核開発問題の顕在化や米国同時多発テロ発生等により、大量破壊兵器技術の拡散は国際的な安全保障を脅かす問題として引き続き存在。米国は、1999年に制定したイラン不拡散法(2005年に改正)において、イラン核開発への関係に疑念があるロシアからの物資・サービス購入を原則禁止した際にもISSは例外とされており、平和目的の外交ツールとしての側面を維持。
- 中国は、有人飛行に成功し、2020年には独自の常時滞在型宇宙ステーションを建設する計画。世界中の科学者に科学研究と実験の機会を提供する旨の発表をしており、ISS及びその後の宇宙探査を巡る国際情勢において、存在感を増してきている。
- 2014年のウクライナ情勢を巡る米露等対立をめぐり外交的緊張が高まる中でも、ISSでの米ロ協力は例外的に継続されている。

## 2. 我が国における国際協力・安全保障・外交上のISSの意味(1/2)

### (1) 計画参加当初の意義付け

ISS計画への参加を検討した際は、有人技術の獲得等の意義以外に、国際協力・安全保障・外交の観点について以下のとおり整理されている。

- 我が国の宇宙ステーション計画参加当初(1985年)、「米国の提唱する宇宙基地計画は、宇宙分野における大きな国際プロジェクトになろうとしており、これに参加・協力することとなれば、日米友好関係の維持、促進上きわめて有効である」という意義が確認されている  
(1985年4月宇宙基地特別部会報告書「宇宙基地計画参加に関する基本構想」より引用)。
- その後、宇宙ステーション開発の本格化に当たり、「我が国がこれに参加することは、国際社会において近年飛躍的に増大している我が国の役割に対する期待に応えていく上から、さらに、米欧諸国との友好関係を維持・促進する上からも、その意義及び重要性が認められる」という意義が確認されている(1987年7月宇宙基地特別部会報告書「宇宙ステーションの開発利用の本格化に向けて」より引用)。

### (2) 2016年以降の運用継続に際しての議論

2010年6月の宇宙開発委員会国際宇宙ステーション特別部会の中間とりまとめにおいては、以下のよう  
に提言が示されている。

「現在、日本のISS計画への参加は国際的な場での日本の強み(Strength)の可視化に貢献している。仮に日本がISS計画から撤退するとなれば、当初はパートナー国に混乱を与えようが、やがては競合他国の代替により混乱は克服され、結果として日本の強みを失うとともに宇宙開発における日本の孤立が危惧される。

また、これまで築いてきた宇宙開発における国際的な影響力、特にアジアにおける先導性の低下は避けられない。

以上の理由により、ISS計画の国際的な影響力(Presence)が維持されている限り、またそれを凌駕する代替策がない限り、ISS計画から撤退することは国益にとって大きな損失となるので、慎重な判断をとるべきである。

また、ISSへの参加継続は、良好な国際関係の可視化への貢献に加え、国益を配慮した宇宙外交戦略における手段(アジア諸国に開かれたISSへのゲートウェイ等)としても有効である。」

## 2. 我が国における国際協力・安全保障・外交上のISSの意味(2/2)

### (3) 現時点での国際協力・安全保障・外交の観点からの意義

現在、計画参加当初の「友好関係の維持・促進」のみならず、主体的な責任、能動的な外交ツール、我が国の自在性確保など、ISS参加の意義・価値が深化・多様化していると考えられる。

- ISS参加国間での対等なパートナーとして地位を確立したことによる宇宙先進国としての矜持
- 相応の責任・義務の履行による参加各国との信頼ある国際関係の構築
- H-IIB/HTVの定常的な運用による我が国の自律的な宇宙活動能力の確保
- アジア唯一の参加国として、宇宙外交・科学技術外交上のツールとしての活用
- 将来的な有人を含む国際宇宙探査活動における発言力の確保 等

### 3. ISS計画から離脱した場合の影響(考察)

#### (1) ISS計画自体への影響

- ① 「きぼう」の運用は、地上施設による運用管制と一体であり、開発及び運用経験を蓄積してきた日本でなければ運用していくことは実態として困難であることから、米国やカナダが持つ「きぼう」の利用権を失わせることになるとともに、ISS計画に脆弱性をもたらす恐れがある。
- ② 日本が分担していた共通的系统運用経費を、他のパートナーに引き受けさせる必要があるが、他のパートナー各国の理解が得られるか懸念される。

#### (2) 国際協力への影響

- ① 日本の撤退は、技術的、政治的双方において、宇宙のパートナーシップにおける「日本への信用」に深刻な打撃を与えるのではないかと懸念がある。今後、新たな国際協力の相手として、日本がこれまでと同等の信用・信頼感を持てる国として見なされるかどうか懸念があるのではないかと懸念がある。
- ② ISSからの離脱は、日本の有人宇宙プログラムを失うことを意味し、国際的な宇宙コミュニティでの日本の地位低下につながるのではないかと懸念がある。それは、科学技術力はあるが、有人宇宙飛行に直接参加していない他の先進国と同様となるのではないかと懸念がある。
- ③ ISS計画へのアジア唯一の参加国として、「アジア諸国からのゲートウェイ」となっているが、科学技術外交・宇宙外交における重要なツールを失うばかりでなく、著しい伸長を見せる中国などにその立場を奪われる可能性が高いのではないかと懸念がある。
- ④ 将来的な宇宙探査計画への影響として、ISS計画やその関連コミュニティの中で、新たな枠組み・計画作りが行われたり、様々な規格・標準が形成されることが想定されるところ、ISS計画からの離脱は、今後の日本の発言力・主導力を確保する場が失われることが懸念される。